

港でポスター展を開催した



働く人のポスター展を開催



島民の方々への発表会



いえしまの人たちとの意見交換

今回、僕らは完成したポスターの展示発表会を開催することにした。真浦港の高速船乗り場の待合室に20枚のポスターを展示して島の人たちに向けて発表を行なった。発表会には取材を受けてくれた方々をはじめ、たくさんの島の人たちが来場してくれた。ポスターを作成した2人一組のチームで順番にプレゼンテーションを行った。いえしまの仕事場について取材の中で感じたことや気づいたこと、携わる方々の想いや仕事に対するスタンスについて感動したこと、僕らが生活している都市部での仕事場との違いなどの発表内容について、いえしまの人たちは真剣に聞いてくれた。発表後の意見交換では、「いえしま仕事場に対する見方が新鮮で楽しかった」、「一枚のポスターにそれぞれの仕事の蓄積や想いがよく表現されている」といった島の方々からの意見をいただくことができた。また、会場内のポスターを誇らしげに見つめる島の方々の姿もあった。これから就職活動を控えるメンバーが多い僕らにとっても、今回の取材やポスター作製、展示発表会を通じて「仕事」について考える本当に貴重な体験となった。このポスター展示会はこの発表会の後も一週間開催し、口コミで多くの島の方々に見に来ていただくことができた。展示会を見学に来た旅館を経営されている方などから、これらのポスターをぜひ展示したいという申し出が来るほどの反響だった。

仕事と島の人の暮らしが近いこと

いえしまの仕事場には「誇り」や「たのしみ」、「ふれあい」、「こだわり」、「愛情」がある。これらのキーワードは都市部の仕事ではなかなか手に入れないものかもしれない。いえしまの仕事場は、それぞれが島の生活と近い距離にあることが大きな特徴だ。だからそれぞれの仕事場では、いえしまに住んでいる人、あるいはいえしまを訪れる人の顔が直接見える関係にある。運搬船の修理、漁業、八百屋、鮮魚店、宿泊施設、教育機関など、自分の仕事が無くなれば、これらの「顔の見える人たち」の多くのが非常に困るということが実感できることが大きな意味を持っているのかもしれない。また、いえしまではほとんどの人が顔見知りなので、店先や道端、船着場など島の至る所で自然と会話が生まれる。仕事の合間にも楽しい交流が始まる。僕らのような来訪者も受け入れてくれて話の輪がさらに広がる。いえしまでは仕事の延長線上に付き合いがあり、付き合いの延長線上にも仕事がある。僕らがいえしまの人たちと接して感じたことは、皆さん気さくでフレンドリーなことである。相手を楽しませることが大好きで、同時に自分自身も大いに楽しむ。このようなコミュニケーション能力の高さは、これからのいえしまの新たな観光において大きな武器になると思った。生活と密着した自分たちの仕事について伝えることは、いえしまの生活文化も伝えることにもなる。



ざるを持って魚の買い物



仕事終わりに船の上で談笑



船着場で井戸端会議